



ハートニュース

なら犯罪被害者支援センターは、犯罪や事故の被害に遭われた方やご家族等をサポートしています。

2024秋
vol.38

— CONTENTS —

副理事長挨拶	2
センター役員等の紹介	2
奈良県警察本部警務部長挨拶	3
令和6年度 上半期の相談活動・直接支援活動状況	3
令和5年度 収支決算	4
吉川友梨ちゃんに関する広報活動	4
令和6年度なら被害者支援ネットワーク総会 特別講演	5
賛助会員（法人・団体）等	11
犯罪被害者支援 奈良県民のつどいのご案内	12
賛助会員募集等	12



相談電話

奈良	TEL.0742-24-0783 月曜日～金曜日 10:00～16:00
中南和	TEL.0744-23-0783 月曜日・火曜日 10:00～16:00
性被害専用	TEL.090-1075-6312 月曜日～金曜日 10:00～16:00
全国共通 ナビダイヤル	0570-783-554 毎日 7:30～22:00

相談無料秘密厳守

メール相談受付けています



なら犯罪被害者
支援センター

ご挨拶

副理事長 吉田 裕
 (株)大和農園ホールディングス
 代表取締役会長



昨年12月18日の理事会において、当センターの副理事長に選出されました「吉田裕」です。私は、平成27年6月5日に開催された定期総会において理事に選出され、以後、微力ではありますが当センターの運営に関わらせていただいております。

県民の皆様には、平素より当センターの被害者支援活動に深いご理解とご支援を賜っておりますことにお礼申し上げます。特に、賛助会に加入し、財政的に支援いただいております企業・団体や個人の皆様には、厚くお礼申し上げます。会費は、被害者等の病院や行政窓口、警察署・検察庁・裁判所等への付添支援などの直接支援に係る費用、法律相談やカウンセリングなどの専門相談に係る費用のほか、生活費用や一時宿泊費用の補助などの経済的支援のため有効に活用させていただいております。

さて、平成16年12月8日に公布された犯罪被害者等支援法では、国民の責務の一つとして「犯罪被害者等の名誉又は生活の平穩を害することがないように十分配慮する」ことが規定されています。いわゆる誹謗中傷や心ない噂により犯罪被害者等に二次被害を与えてはいけないということだと考えます。今回のハートニュースに掲載された「なら被害者支援ネットワーク」の講演で、講師の小谷真樹氏（亀岡暴走死亡事件のご遺族）は、○無免許運転の厳罰化を求めるため行った署名活動で受けた誹謗中傷の現状や、○励まそうとして発言された友人や近隣者の言動による二次被害の現状等話をされており、犯罪被害者等基本法が求める精神がまだまだ反映されていないと痛感させられました。さらに、講演では、犯罪被害者等のための特別休暇制度の普及促進についても言及され、犯罪被害が原因で職場を休まなければならない現状と、犯罪被害者等が安心して休暇を取得できる制度の必要性を訴えられました。被害者等のための特別休暇制度については、当センターでも約3年前から各企業への働きかけを行っているところです。

皆様には、さらに犯罪被害者等の現状に関する理解を深めていただき、地域社会全体で犯罪被害者等を支援する気運が醸成されるようお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

(公社)なら犯罪被害者支援センター役員等 (令和6年10月1日現在敬称略・順不同)

役名	氏名	所属団体等	
理事長	北條 正崇	弁護士 なら被害者支援ネットワーク代表	
副理事長	橋本 隆史	(株)南都銀行頭取	
	吉田 裕	(株)大和農園ホールディングス代表取締役会長	
	山田 喜生	トヨタユナイテッド奈良(株)代表取締役副社長	
	千原 雅代	臨床心理士 天理大学大学院教授	
理事	川真田リエ	弁護士 奈良弁護士会犯罪被害者支援委員会委員長	
	松谷 幸和	奈良県信用保証協会会長	
	大久保純一郎	臨床心理士 京都橘大学教授	
	中村 正徳	大和信用金庫理事長	
	赤崎 正佳	医学博士 産婦人科医 (医)赤崎クリニック理事長	
	岡 努	(社福)奈良いのちの電話協会常務理事兼事務局長	
	藪内 利一	三和運輸(株)顧問	
	藤本 晃章	(株)たいよう共済奈良支店支店長	
	福井 学	支援センター専務理事	
	東元 伸光	支援センター事務局長	
	監事	亀井 紀子	税理士 亀井会計事務所
		稲本 喜典	元支援センター理事
相談役	西口 廣宗	元支援センター理事長 元(株)南都銀行頭取	
	森本 俊一	元支援センター理事長 三和澱粉工業(株)代表取締役会長	
顧問	椎橋 隆幸	(公社)全国被害者支援ネットワーク理事長	
	毛利 嘉晃	奈良県地域創造部長	
	泉 俊輔	奈良県警察本部警務部長	
	谷田 健次	奈良市市民部長	
参与	田中 裕之	奈良県地域創造部人権施策課長	
	川本 勝実	奈良県警察本部特命参事官	
	増田 朋美	奈良県警察本部警務部県民サービス課長	
	宮本 勝文	奈良県警察本部警務部県民サービス課犯罪被害者支援室室長補佐	

ご挨拶

奈良県警察本部警務部長
泉 俊輔 様



本年7月22日、奈良県警察本部警務部長に着任いたしました泉でございます。

古都奈良の地での勤務は初めてであり、感慨深く感じております。

(公社)なら犯罪被害者支援センターの皆様には、平素から事件、事故の被害者やそのご家族の心情に寄り添った様々な支援活動に、ひとかたならぬご尽力をいただいております、厚く御礼申し上げます。

さて、犯罪被害者等の支援は、被害者等が経済的、心理的な種々の苦しみから早期に平穏な生活を取り戻すために、必要な支援を途切れることなく受けられるようにすることが重要となります。

この点、地方における途切れない支援の提供体制の強化が全国的に求められているほか、経済的支援の一つである犯罪被害給付金についても、本年6月に金額の引き上げが行われるなど、犯罪被害者等支援の重要性について、議論の広がりを見せております。

県警察においても、時代の流れと共に多様化する犯罪被害者等のニーズに柔軟に対応し、被害者ファーストのきめ細かな支援に取り組んで参りますが、犯罪被害者等に対する途切れない支援には、貴センターとの連携が重要であると考えており、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、犯罪被害者等支援に携わっていただいている皆様方のご健勝とご活躍、また、(公社)なら犯罪被害者支援センターのますますのご発展を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

令和6年度上半期の相談活動・直接支援活動の概要

相談活動

電話相談	196件
面接相談	31件
メール相談	10件
専門相談	65件
直接支援	249件
合計	551件

直接支援活動

警察署、検察庁、裁判等への付添等	59件
法律相談への付添等	74件
医療機関、カウンセリングへの付添等	11件
関係機関、職場等への連絡・付添等	77件
その他	28件
合計	249件

専門相談の内容

法律相談	43件
カウンセリング	7件
医療機関受診	15件

令和5年度 収支決算

収入の部

科目	決算額(円)
会費	12,174,100
寄付金	6,807,330
補助金	1,500,000
委託金	1,273,562
雑収入	456
合計	21,755,448

支出の部

科目	決算額(円)
相談・直接支援事業	8,668,124
旅費・通信費	2,917,237
広告宣伝活動費	1,824,811
賃借料	1,629,820
諸謝金	960,180
その他事業費	1,054,109
管理費	4,484,301
合計	21,538,582

吉川友梨ちゃんに関する情報提供を求める広報活動

平成15年5月20日(火)午後3時ころ、大阪府泉南郡熊取町七山付近で

吉川友梨さん(当時9歳)が誘拐されました。

支援センターでは、本年5月20日(月)、近鉄生駒駅前において、吉川友梨さんに関する情報提供を求めるため、広報活動を行いました。

皆様のご自宅等の近くで住まわされているかもしれません。



皆様のご協力をお願いいたします。

大阪府警が発表された現在の友梨さんの想像図です



髪形がロングの想像図



髪形がショートの想像図

令和6年度 なら被害者支援ネットワーク総会

特別講演

令和6年6月19日（水）、奈良県警察本部において開催された「なら被害者支援ネットワーク総会」において、交通死亡事件のご遺族の特別講演を聴講させていただきました。

以下は特別講演の内容です。紙面の都合上、一部省略していますがご紹介します。

なお、被害状況についての内容が含まれておりますので、お辛い気持ちになられたときは、一旦読まれるのを中止されるなど、ご自身の心を守る行動をお願いします。

講師 京都交通事件被害者の会（古都の会）

代表 小谷 真樹氏

演題 最愛の娘を奪われて

講師の紹介

講師は、京都交通事件被害者の会（古都の翼）代表 小谷 真樹（おだにまき）様です。小谷様は平成24年4月23日、京都府亀岡市内の府道で小学校の集団登校の列に無免許の少年が運転する軽四乗用車が突っ込み、児童2名と付き添いの妊婦1人が亡くなり、児童7人が重軽傷を負った事件で、ご自身の長女が負傷し、次女を亡くされました。その後はこれ以上犠牲者を出してはならないとの思いから、関係省庁への働きかけに取り組み、平成25年11月に「自動車により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律」の制定に向けた参議院法務委員会への参考人として出席され、平成30年11月には警察庁主催で滋賀県にて開催された交通事故で家族を亡くした子どもの支援に関する意見交換会では、遺族の一人として参加されるなど、交通事故の根絶に向けた取り組みを続けられる傍ら、社会の人々に向かって命の尊さ、重さを伝えるべく生命のメッセージ展に参加されているほか、中高生を対象とした命の大切さを教室にて多数ご講演されるなど積極的な活動をされています。



ただいまご紹介いただきました「古都の翼」の小谷と申します。最初に、私の娘たちの紹介をさせてもらいたいと思います。画面の動画を見てください。

（※動画が流れる）

今の動画は、亡くなった真緒の小学校入学式の時の映像になります。事件は2012年、その1年前

の映像になります。写真の一番右が亡くなった次女の真緒、真ん中に写っているのが長女です。長女も被害に遭いましたが、幸い怪我だけで命は助かっています。一番左に写っているのが三女で、事件当時は保育園の年長でした。長女と次女は、年が1歳しか離れてなく、いつも一緒に、本当に仲の良い

姉妹でした。3人が一緒に写っている写真で、私が持っている一番新しいものになってしまっています。

本日、私が話す内容は、大まかには次の3つになります。事件当日、私が体験したことを話したいと思います。次に事件後の生活で感じたことであったり、体験したこと、そして最後は、私の思いをお話しさせていただきます。

事件について

事件では4つの命が奪われ、7人の子どもたちが重軽傷を負いました。2012年、娘の事件の時の年間の交通事故死者数は、全国で4,411人でした。それを1年365日で割ったら、1日約12人の方が亡くなっていることとなります。この4,411人のうちの1人が、うちの娘になります。命の数を数字で示すのは、娘の命の数でもあるので正直嫌なところはありますが、データから見ても、決して特別じゃなくて、毎日どこかで起こっていること、交通事故と呼ばれるものが今まさにどこかで起こっていると感じてもらいながら、私の事件当日の話聞いてほしいと思います。

2012年4月23日。娘たちは新しいクラスにも慣れた時でした。その日の天気予報は、雨が降るかもしれないということでした。普段私は、娘たちより早く仕事に出ていましたが、1ヶ月に数回、娘たちと一緒に家を出る日がありました。その日はたまたまそのような日で、「雨降るかもしれへんし、傘持って行くんやで」と2人の娘に声をかけていました。すると真緒は、「わかった。じゃ

あ、昨日買った靴は履いていかへんわ」って返事をしてくれました。というのも、事件の前日に近くのショッピングモールへ買い物行った時に、真緒が「これ買って」と、新しい靴と「たまごっち」のキャラクターの筆箱と鉛筆を買ったんです。その日、その新しい靴を履こうと思って本人は準備していましたが、雨が降るかもしれないし、汚れたら嫌やということで、今までの靴を履いて学校に行くことになりました。2人が登校班に合流して、最後にニコッと私の方を振り返って2人とも見てくれて、でも「こっち見てやんと早よ行き」と言って2人を行かせ、私もそのまま会社に行くという、どこにでもある1日の始まりでした。私は、運送業をされていて、会社に着いてトラックに乗り込もうかなという時に、同居している私の母から携帯に連絡が入ったんです。普段そんな連絡が来ることがないので、「どうしたんやろ、こんな時間に」と思って電話に出てみると、「子どもたちの登校班で事故があったと学校から連絡があった。私はすぐ向かうわ」という電話でした。状況を聞いても何もわからない。事故があったという一報を受けたみたいで、それをすぐさま私に知らせてくれて、私もとりあえず上司に事情を説明し、トラックに乗って事件現場に向かいました。向かっている時に「現場に着いたけども、真緒はいない」と、再度母から連絡が入ったんです。「どうなってんや」と聞いたのですが、「大勢の人で混雑してて、どういう状況か分からへん。先生に聞いたら、真緒ちゃんは救急車で運ばれた」という話やったんです。それで「長女は」

と聞いたら、「座ってる」と。母親が見る限りでは、顔とか足から出血してるけど、普通に座ってこっちに反応を示してくれているということでした。私は言葉で聞くだけだったので、とりあえず現場じゃなく、真緒が運ばれた亀岡市の北にある南丹市の病院に向かうことにしました。私は自分の車を置いて、別の方に車で送ってもらったんです。病院に到着して受付に行き、「今運ばれてきた小谷真緒の父です」と言い、案内してもらった先は集中治療室の前で、中に入れてもらおうと思



うと、2人の方が来られて、「真緒さんのお父さんですね。娘さんは今ですね」と、どういう状況であるかとか、どういう治療をしているのかという話をされたんですが、私には知識がなく、言ってることもわからないし、「とりあえず早いこと真緒に合わせてください」と中に入ったら、多くの医師や看護師が何かを囲んでいる状況でした。そして「お父さんが来ました」ということで開けてもらった先に、数時間前「行ってくるわ。明日から新しい靴履くわ」と言って笑顔で出て行ったはずの真緒が、口元が衝撃で歪んでしまい、鼻や口から血が噴き出すような状態で、腰の方に目を向けると、腰のあたりの肉が剥ぎ取られているような状態で、辺り一面、血の海にしている真緒がいました。病院に向かっている時は、「どこか骨折れてへんやろか」とか、「頭、切ってへんかな」とか、命の危険なんて何も考えずに病院に向かっていた自分がいました。現場は広い道でもないし、スピードを出すような道でもないの、本当に怪我をしたぐらいだと思って病院に向かったの、そのような状態の真緒と出会って頭が真っ白になりました。「大丈夫なんですね」と言っても、必死に治療をされていることは伝わってきましたし、真緒自身も傷つきながらも頑張っていたのを感じていました。そんな時に携帯が鳴り、出てみると長女が運ばれた病院からの電話でした。電話に出てみると、「外傷はあるけども命は大丈夫です」という言葉をいただいたので長女は病院に任せて、私は「お姉ちゃんが大丈夫なんやから真緒も助かる」という思いで治療室に戻りました。すると、一人の方が来られて、「真緒さんの治療を続けるにはこの病院では追いつきません。設備がもっと整っている豊岡市の病院に真緒さんをヘリで搬送します」と説明されました。医療の知識は何もありませんが、その距離感だけはわかったので、「そんな遠いところに真緒を運ぶって、おかしいのじゃないですか」と文句を言ってしまったんです。これしか真緒を助ける方法がないということで、病院の皆さんは準備されだし、私もヘリポートに真緒と一緒に上がって行きました。その時の真緒の出血は凄くて、吹き出すように出血していましたが、それでもなんとか生きようと必死に頑張ってくれていました。そして、真緒がヘリに乗せられ、私も一緒に乗れると思って乗り込もうとすると、「お父さんはここまでです」と止められたんです。定員の関係で乗れないと。何が出来るわけでもないのですが、このような状態になった娘を見送ることなんて私にはできないと思って突っかかりました。

どれだけ突っかかろうが変わらず、私は娘をただ見送ることしかできませんでした。私の父が一緒にいたので、近くの警察官に「こんな状態の息子を自分で行かせられへんから、連れて行ってくれ」とお願いしたのですが、「そのようなことはできません」という返答でした。私も、1分でも1秒でも早く豊岡に向かいたかったの、自分の車で行く」と言って、豊岡まで結構な距離がありますが運転して行きました。そのときの運転は、多分、私自身が別の事件事故を起こしていてもおかしくなかったと思えるぐらいの精神状態と、運転だったと思うので、怖い行動をしていたと思っています。

その後、豊岡の病院に着いて対面した真緒は、医師が心臓マッサージをしている状態でした。医師は「今まで2回心臓が止まりましたが、頑張って生きようと心臓を動かした」という説明をされました。3度目の望みをかけて医師も頑張ってくださいたのですが、随分時間が経過していたこともあり、私は延命治療の判断を医師に委ねました。テレビドラマの話だと思っていたことが、私の娘にそんな決断をせねばならないことがとても苦しく、しんどかったです。もう難しいというお話で、私は延命治療の停止を告げました。助けることも何もできず、見守ることしかできなかった私がしたことは、真緒の死の時間を決めてしまうことでした。その後は、京都府警が真緒を迎えに来るのを待ちました。その時に、真緒に続いて妊婦の松村幸姫（ゆきひ）さんがお亡くなりになったことも知り、私はボロボロの状態でした。その後、迎えに来られた警察官に真緒をお願いして、私は長女が運ばれた病院に向かいました。長女は、親族に囲まれてベッドに横たわっていました。話しかけても言葉が出ないような状態でしたが、それでも私が話しかけることに頷く、首を傾けてくれることに、私は生きていてくれたことに凄い喜びを覚えていました。ただ、長女は真緒のほぼ後ろを歩いてたので、どのような現実、どのような場面を見ていたのかと、本当に心配が押し寄せていたのですが、とりあえずその日は、長女の回復を祈って病院にお任せし、私は真緒を迎えに警察署に行きました。亀岡市の警察署に着いた時には、もう日付も変わっていました。

事件によって想像していた幸せが奪われました。真緒の笑顔が奪われてしまいました。真緒は未来に向かって生きる権利、日常を奪われました。当たり前にあるものが、人の身勝手によってこんなにも簡単に、あっけなく奪われてしまう現実を私は思い知らされ、正直、今でもそれ

に関しては恐怖を感じています。真緒たちは、学校や大人たちが決めた安全な道、安全だと言われた道をちゃんと歩いていただけなのに、ハンドルを握る身勝手なドライバーによって一生を奪われてしまった現実を感じていただけたかと思います。

事件後の生活

ここから事件後の生活についてお話したいと思います。二次被害についてです。私も様々な二次被害と呼ばれるものに遭いましたが、二次被害は人それぞれ形が違っていると思います。まず、私が被害者になって感じたのは、事件が大きかったということもあり、すぐに報道が始まっていました。その時、すでに加害者の少年が無免許運転であったという情報を私は持っており、報道もされていました。にもかかわらず交通事故と報道されることにもの凄く違和感を感じていました。周りからも事故と呼ばれること自体もの凄く嫌です。真緒は何も悪くないのに、無免許の挙げ句、居眠り運転をしている自覚がありながら運転を続けて、この事件を起こしているのだから、事故という言葉は違っていると、ずっと思っています。事故と呼ばれることに対して、「事故じゃない」と、当時から言っていました。これも周りの方に理解してもらえないギャップが生まれてしまったと感じています。また、事件の時に真緒が使っていた物を真っ直ぐ見ることになりました。小学校のランリュック（京都の一部の小学校で使用されているランドセル）がもの凄く引き裂かれ、中に入っていた物もぐちゃぐちゃでした。前日に買った「たまごっちの筆箱」を家で開けてみると、ピンピンに削った鉛筆が5本入っていて、張り切って学校に行こうと思っていたことが遺品からも伝わってきました。真緒は、ランリュックが丈夫であったために車の下に引っかかって引きずられてしまった。腰の当たりの損傷は、そういうところからだと後で説明がありました。

事件後、手続きとはいえ、死亡届を提出しなければなりません。私自身、「小谷真緒」という文字を書き込むことができませんでした。娘の死を認めたくないという思いと、この世から消えてしまう手続きになると思うと書くことができませんでした。いざ書こうと思っても、本当に人生で初めて手が震えて字が書けなくて。誰かに代筆してもらおうという選択もあったのかもかもしれませんが、そういう選択はせずに、最後は泣きながら、「何でこんな思いをさせられるんや。何でこんな思いせなあかんねん」という思いと怒りで、震えながら字を書いたのを覚えています。

長女もその後は学校に復帰しましたし、三女も保育園に通う日常生活に戻していく中で、新学期に入って家族構成とかの書類を学校に提出する時期があったんです。それまでは3姉妹と書いていたものを2人と書かんとあかんようになって。私は書けなかったの、今まで通り3人の名前を書いて提出しました。今でもそうさせてもらっています。相手からどう思われようが、それは関係ないとの思いで書いているのですが、中には書けない方もおられると思います。それがとても苦しいことだということも、その立場になって初めて感じたことです。後で2人の娘から聞いたことですが、娘たちもやはり学年が上がるときとか、小学校から中学校、中学校から高校へと上がっていくときに、家族構成や、兄弟姉妹がいるのかを聞かれると、今でも苦しいと言っています。3人姉妹と言ったことで「お姉ちゃん一人しかいないやん」と言われると、一番下の子も言っていました。その言葉で子供たちは凄く傷ついたようです。少し年月が経ってからでしたが、娘たちからこんなことを聞かされました。

真緒は3姉妹の真ん中で、うまく3人のバランスをとってくれていたの、事件直後は、2人が別々に遊んでいた状況でした。そのことを2人がどう思っていたかは分かりませんが、それを見ていた親としてはとても苦しかったです。また、外食とかに行き出したとき、店に入るや、「何名様ですか」と聞かれて、ここでもそういうことを聞かれて答えないといけないのか。真緒がいない人数を言うのがどうしても受け入れられない。でも言わないとおかしい話になると思い、「あとでもう一人来ます」と言ってしまう、結局は来られなくなったという形にしていました。今までは、当たり前のように真緒がいたのに、席に真緒が座っていない現実が、これほど場面、場面で出てくることあることに気づかされました。その度に悲しい思いをし、加害者に対する怒りが込み上がってきたこともあります。食事に行き、みんなで楽しく過ごしていたはずなのに、本当にその時は悲しくて冷たい食事の場になったと思っています。学校行事、運動会や授業参観でも同じようなことがありました。運動会に真緒の友達が出てくるけど真緒がいない。真緒がいないことは分かっているけど真緒の学年の授業参観を見に行ったりとか。ほかの保護者の目は気になっていましたが、それでも真緒の教室に行っていました。

また、うちの小学校の卒業式は、在校生を代表して5年生が出席することになっていました。長女が卒業

式から帰ってきて、あらためて「卒業おめでとう」と声をかけたんですね。すると長女は暗い顔して、元気がなかったの、「どうしたん」って聞いたら、送り出してくれた在校生の中に真緒がいないのがもの凄く悲しかった。長女にとっては本当にお祝いであり、喜びいっぱいであるはずなのに、何んでこんな思いをこの子はしてるんやと。こういうことを加害者たちは分かってるんか。そういうことばかり考えてしまって、純粋に心の底から祝ってやれなかったと、今思い返すとそんな自分がいたと思っています。

また事件後、署名活動をしたことがあり、その場でたくさん励ましの言葉をいただきましたが、逆にこういう言葉も言われました。「気が狂っていたら家から出てへんわ」と。こうして活動してる自分は、気が狂っていると思われてるのかなって思ったり、「加害者に復讐しに行くけどな」とも言われました。復讐できるのならするし、復讐したところで真緒は帰って来ないという思いもあったし。また「前を向かないと真緒ちゃんが成仏できないよ」って言われても、前を向いている結果が署名活動でしたし、悲しんでいたら真緒ちゃんが成仏できない、「そんなこと何であんたにわかんね」という思いもあって、私のために声をかけてくれているとは思いますが、こういった言葉に社会と壁を作ってしまったという思いは正直あります。「時間が経ったら落ち着く」とか、「時間かかると思うけど、頑張るな」とか言われて、「時間かかるけどって何のこと言うてるのかな」、「時間が解決する問題じゃなくて一生の問題や」と思いながら、理解してもらえていない言葉にショックを受けたことがありました。仕事も事件のことで頭がいっぱいで手につかないこともありました。

友人たちとの付き合いでも、気晴らしに食事に誘ってくれましたが、やっぱり笑い話ができなくなって、私が口を開くと加害者への憎しみとか恨み、怒りを口に出し、その場の空気が悪くなったと感じたのか、誰かに「相手も殺そうと思ったわけちゃうんやし」と言われて、その言葉に「もう無理、一緒にはおれへん」と思い、その後は誘いを断っていました。一つ一つは小さいことかもしれませんが、その積み重ねが被害者が社会に心を閉ざしてしまう結果になるとと思っています。

このような話をし過ぎると、「じゃあ、被害者どう関わったらいい」とか、それこそ言葉をかけられなくなってしまおうと思われるかもしれません。確かに難しいことを言っているかもしれませんが、一番ダメなのは、被害

者や遺族の方を孤立させることだけは絶対ダメだと思っています。被害者の方がおられたら、必要以上に言葉をかけなくていいと思います。見守ってもらって、「最近どう」ぐらい声をかけてあげて、関わりだけは絶対つながってほしいと思っています。先程の友人にしても、時間はかかりましたが、その後はひたすら私の愚痴を聞いてくれていますし、私の話を聞いて同調してくれるようになりました。死亡届の話も、あれは私が市役所に行って書いたんじゃないって、警察の被害者支援室が24時間体制で私に付いてくださり、それで気を利かせて家に死亡届を持ってきてくださり、また、それを持っていくときも、報道が多かったので普通の窓口じゃなく、普段は通らないような場所から個室に連れて行ってもらう、そこで対応してもらった。そういった温かい支えがあったから、真緒の父として死亡届を書けたのかなと思っています。

メディアも、当初はメディアスクラムが発生していて、もの凄く嫌に思った時期もありましたが、事件から数日後、警察や学校から被害者や犠牲者の個人情報に加害者の父親に渡していたということがありました。その時は正直、京都府警と亀岡市教育委員会に関しては一切信用できなくなってしまい、唯一私たちの味方がメディアでした。少年法が絡んでおり、なかなか情報がもらえなかったのは確かでしたが、そのときに報道関係者がいろいろと教えてくれ、救われたと感じています。報道はダメだっていう人も沢山おられますが、私たちは凄く助けられた一面があったと思います。これは、長女が事件後に救われた話ですが、長女が学校に通い出すとき、一人で歩いて行くのが怖いということで最初は送っていました。けれども、ずっと送っていると、今度は逆に一人で歩けなくなるという心配もあったので、長女と相談していたら、「大人と一緒に歩いてくれたら」ということだったので、学校に相談しました。当時、学校としては大人の付き添いをやめる方向性だったので、うちの娘だけでも付けてほしいとお願いしましたが理解が得られなかったの、だったら私が仕事を辞めて連れて行こうと決断したんです。この状況を見た近所の方が、「私たちが班を組んで娘さんの付き添いする。それで少しでも助かるのならやらせてほしい」と言葉をかけてくださって。事件後1年間、娘のために地域で班を組んで付き添いをしてくださいました。勿論、娘が歩いて行こうと思った気持ちが一番大きかったのはあります。それでも地域や周りの方の支えがあって、私もその後、

地域の方とはいい関係が築けていますし、娘も今20歳になりますが、自分の足でどこにでも歩いて行けているのも、周りの温かい支えがあったからこそ、今幸せに生きられていられると感じています。

「命の大切さを学ぶ教室」で学校などを回っていたら、岡山県の山陽学園大学の学生さんたちが、事件や事故を風化させないように語り継いでいきたいという思いで「紙芝居を作っていいですか」と声をかけてくれました。それを小学生たちに読み聞かせしたいということでした。それぞれの立場でできることを考え、提案してもらえたことは、私にとってはもの凄いい被害者支援になっています。自分がやってることが、決して無駄じゃないと感じさせてくれましたし、また皆が事件を無くそうという思いを持ってもらえていると思うと、とても勇気づけられます。

また私が、今一番お話しをさせてもらっているのは、犯罪被害者の休暇制度について考えてほしいということです。私は、娘の登校に付き添うのもあったのですが、事件後、警察の捜査への協力とか、裁判の準備、自分自身や同居してる家族の精神的なケアとかも含めて、仕事を続けるのがしんどかったのが現実です。被害者参加制度を使えたのは1名だけでした。事件に絡んでいた少年は4名で、その4名の裁判を私は全部見に行っていたので、事件後8ヶ月だけでも17回公判があったんです。私は、それを見に行かないという決断はできませんでしたが、裁判は平日ですから仕事を休むしかありませんでしたし、裁判は平日ですから仕事を休むしかありませんでした。それ以外にも子供のことで休んでいましたので、なかなか仕事を続けるのが難しいという思いがあって、仕事を辞めました。被害者や被害者家族に、いつ、誰がなるか分からないことはご承知されていると思います。だからこそ、この犯罪被害者の休暇制度は必要だと思います。少しの休暇を与えることによって社員が辞めないのであれば、会社にとってもメリットがあると私は思っていますが、調べてみると全然進んでいないのが現実で、国も本腰入れてやってくれませんが、社会全体で被害者のための休暇制度も考えてほしいと思います。奈良からしっかり社会に向かって発信してってもらえたらと思います、紹介させてもらいました。

事件のあった学校の近くにモニュメントも建ててもらい、ハナミズキを植樹させてもらいました。事件の現場の道路も改善されましたが、後でどれだけ改善しても、事件が住民に与えた衝撃は大き過ぎて、誰もが「この道路を通らんとこ」という思いになって。綺麗になっ

た道だけど、悲しい道で、子供たちが通らない道になっているのが現実です。だから、何よりも事件を起こさないのが一番ですし、真緒にとって、友達と通った楽しい通学路だったはずなのに、今となっては誰も通らない、誰も寄り付かない道になっているのは、その道を見てる私も辛いので、事件や事故は一つでもなくしてほしいと思っています。

私の思い

事件が起こってから12年が過ぎました。娘たちも大きくなり、それぞれやりたいことをやり、傍から見れば何もなかったかのように思われてるんだろうなって思いながら日々過ごしています。ですが、真緒を突然奪われてしまった苦しみや憎しみは、何一つ薄れていません。本当なら来年の1月は真緒の成人式でした。憎しみも増え続けてます。「会いたいな」って思いを日々持ち続けているのが正直なところです。真緒のいない12年を過ごして、矛盾の中で生きているような思いもしています。それでも何とか父親として真緒に対して、娘たちに対して恥ない生き方をしたいと思い、下手ですが皆さんの前でお話をさせてもらっています。もうこんな思いはしたくないですし、誰にもしてほしくないと思っています。それには犯罪被害者支援に関心のない方達にどうアプローチするかが、この先の課題だと思っています。時代とともに、ご遺族であったり、皆様のご尽力で被害者支援が進んできているものの、ここから先は関心のない人たちの意識をもっともっと高めていくことが大事だと思いますので、皆様のお力をよろしく願いいたします。

最後に、真緒への手紙ということで、私からの思いをムービーに作ってきています。皆様にも必ず大切な人はいると思いますので、どうかその方を思い浮かべながらムービーを見てもらえたらと思います。

※動画が流れる

今見てもらった真緒は、ニコニコで笑顔いっぱいですが、私の中で真緒を思い出すとどうしても事件当日の苦しんだ、歪んだ顔を思い浮かべてしまいます。こんな思いをする人を一人でも減らしたいですし、真緒のように生きる権利を奪われることがあってはならないと思います。皆さん一人一人が命の大切さであったり、命の重みを感じてもらえれば、私は必ず犯罪被害はゼロにできると思っていますし、その思いが必ず被害者支援の拡充につながると思っています。

ご協力ありがとうございます

賛助会員(法人・団体)

あ行

あいおいニッセイ同和損害保険(株)
 (株)アイワ
 (株)愛和
 アスカ美装(株)
 (株)アスモ
 (社福)郁慈会
 生駒交通(株)
 生駒商工会議所
 (株)いせや
 岩本洋二税理士事務所
 梅乃宿酒造(株)
 ウラベ商事(株)
 エディオン王寺駅前店
 (株)NKKセキュリティ
 尾浦自動車(株)
 (医)慈生会 岡村産婦人科

か行

(株)柿の葉すし本舗 たなか
 (株)鍛冶田工務店
 香芝市商工会
 橿原オークホテル
 橿原商工会議所
 橿原神宮
 春日大社
 (株)春日ホテル
 葛城市長尾自治会
 葛城木材産業(株)
 (株)金子産業
 かねまつ建設(株)
 上武建設(株)
 河村繊維(株)
 (宗)元興寺
 (一財)関西生前整理協会
 (株)北岡本店
 共立薬品工業(株)
 大阪うどん きらく
 近鉄グループホールディングス(株)
 近鉄ケーブルネットワーク(株)
 (医)果恵会 恵王病院
 (社医)大和清寿会 (医)健和会
 (株)コアズ 奈良支社
 (株)公益社
 広陵化学工業(株)
 広陵町商工会
 五條地方明るいまちづくり対策協議会
 (株)ゴセケン
 御所興産(株)
 (株)駒井製作所
 小山(株)

さ行

阪口工業(株)
 酒本産業(株)
 佐藤物産(株)
 佐藤薬品工業(株)
 三和運輸(株)
 三和住宅(株)
 三和商事(株)
 三和澱粉工業(株)
 GMB(株)
 (株)シードコンサルタント
 (株)JITSUGYO
 プティックしんどう
 (有)スギムラ不動産
 (株)セイコー社
 (学)聖心学園
 (一社)生命保険協会 奈良県協会
 全国共済農業協同組合連合会奈良県本部
 損害保険ジャパン(株)

た行

(株)大紀
 大協(株)
 大光宣伝(株)
 大興ホールディングス(株)
 ダイドードリンコ(株)
 ダイヤ製菓(株)
 (株)たいよう共済 奈良支店
 大和ガス(株)
 高市製菓(株)
 (株)タカキタ
 (株)高木包装
 田村薬品工業(株)
 竹茗堂左文
 中央総合警備(株)
 千代酒造(株)
 つけもと(株)
 (有)つる由
 テクパーク・なら工業団地運営協議会
 (学)帝塚山学園
 (株)寺田ポンプ製作所
 (宗)天理教
 東京海上日動火災保険(株)
 東洋精密工業(株)
 トヨタL&F奈良(株)
 トヨタユニテッド奈良(株)
 (株)トヨタレンタリース奈良

な行

(株)中井メリヤス
 (株)中尾組
 (株)ナカガワ
 奈交サービス(株)
 奈交自動車整備(株)
 奈良豊澤酒造(株)
 奈良近鉄タクシー(株)
 (一社)奈良県医師会
 奈良県花き植木農業協同組合
 (公社)奈良県看護協会
 (一社)奈良県銀行協会
 (一社)奈良県経済倶楽部
 奈良県警友会連合会
 奈良県建築労働組合
 (一財)奈良県交通安全協会
 奈良県産婦人科医会
 奈良県自動車整備工業協同組合
 奈良県自動車販売店協会
 奈良県信用金庫協会
 奈良県信用保証協会
 奈良県中小企業団体中央会
 (公社)奈良県トラック協会
 奈良県農業協同組合
 奈良県農業協同組合中央会
 奈良県遊技業協同組合
 奈良県臨床心理士会
 奈良交通(株)
 (有)奈良コンタクトレンズセンター
 (株)奈良自動車学校
 (社福)奈良社会福祉院
 奈良商工会議所
 国際ゾンタ 奈良ゾンタクラブ
 奈良ダイハツ(株)
 奈良中央信用金庫
 奈良電力(株)
 奈良トヨタ(株)
 (株)奈良トヨタCDSテクノ
 (株)奈良保健衛生社
 (株)奈良マツダ
 (株)南都銀行
 西垣林業(株)
 (社医)松本快生会 西奈良中央病院
 (株)ニシベケミカル
 (株)ノア技術コンサルタント

は行

花松印刷(株)
 (株)ハヤシ・ニット
 パン・ド・ブール
 東吉野村まちづくりNPO
 (株)疋田建設
 樋口レッカー
 (株)飛天
 (株)平井眞美館
 福井水道工業(株)
 福和商事(株)
 (株)フューチャーコーポレーション
 農事組合法人ふるさと明日香
 (社医)平成記念病院
 (株)ホンダ商会

ま行

マクドナルド王寺リーベル店
 (株)榎谷設計
 (株)榎本レッカー
 松田電気工業(株)
 松陸運輸(株)
 (株)丸國林業
 三井住友海上火災保険(株)
 (株)明新社
 (株)森下組
 森高建設(株)

や行

ヤマト一商事(株)
 大和信用金庫
 大和高田商工会議所
 大和高田ロータリークラブ
 (株)大和農園ホールディングス
 山本商事(株)
 (株)有宏社
 米山台ゴルフクラブ

ら・わ行

料理人のおばんざい楽
 リーベル王寺東館商店会
 (株)リフレ館
 (有)ワールドセキュリティーサービス
 和興産業(株)



ご寄附

(法人)

福和商事株式会社
 株式会社大和農園ホールディングス
 令和5年度西友会奈良西警察署駐車管理委員会
 香芝・広陵地区警察官友の会
 奈良県警県民サービス課

(個人)

赤崎 正佳	近藤 孝夫	寺西 裕子	藤本 晃章
大久保純一郎	櫻井 笑子	永吉 正昭	北條 正崇
亀井 紀子	高橋 康	平岡 克忠	松谷 幸和
清岡 恵美子	千原 雅代	福井 学	

お願い 名簿に記載漏れ、誤字、脱字等の不備がございましたらご容赦ください。その節は、恐れ入りますが事務局までご連絡をお願いします。

11月25日(月)~12月1日(日)は「犯罪被害者週間」です

参加費
無料

令和6年度 犯罪被害者支援

奈良県民のつどい



日時 令和6年**11月29日(金)** 12:30 開場(受付開始)
13:00 開演
会場 奈良公園バスターミナル レクチャーホール
奈良市登大路町76番地 奈良県庁東側

プログラム

ウェルカムコンサート

(奈良女子大学管弦楽団)

曲名 秋の歌メドレー ほか



第一部 開会式典 主催者挨拶・来賓祝辞
犯罪被害者支援功労表彰

第二部 特別講演 演題 命を奪われたということ
講師 大久保 巖氏 ユカ氏(ご夫妻)
少年犯罪被害当事者の会

~総司会は奈良女子大学放送局B-naRadioの皆さん~

平成21年6月、講師のご次男光貴さん(当時高校1年)は、光貴さんの交際女性に好意を寄せた加害少年(高校3年生)に恨まれ、殺害されました。加害少年は平成23年2月、大阪地裁堺支部で、当時の少年法上、有期刑で最も重い懲役5年以上10年以下の不定期刑を言い渡されましたが、裁判長は、「5年で刑の執行が終了になる可能性がある点でも、10年を超えて服役させられない点でも十分とはいえない」と指摘し、「適切な法改正を望む」と異例の言及をされました。その後、平成26年4月の少年法改正で、不定期刑の上限が「10年以上15年以下」に引き上げられました。



15歳で亡くなられた
大久保光貴さん

当日の10:00~16:00の間、
会場前の「情報広場」で『生命のメッセージ展』を開催します。



主催 奈良県 奈良県警察 (公社)なら犯罪被害者支援センター
共催 奈良県全市町村
協力 特定非営利活動法人いのちのミュージアム 特定非営利活動法人KENTO
後援 奈良県議会 奈良県市長会 奈良県町村会 奈良地方検察庁 奈良県教育委員会 奈良弁護士会 奈良県産婦人科医会 日本司法支援センター奈良地方事務所 (一社)奈良県臨床心理士会 (一財)奈良県交通安全協会 (公財)奈良県防犯協会 (公財)奈良県暴力団追放県民センター 奈良県少年補導員協会連合会 奈良県警友会連合会 (社福)奈良いのちの電話協会 (公社)全国被害者支援ネットワーク なら被害者支援ネットワーク
問い合わせ先 奈良県人権施策課 0742-27-8716

賛助会員・寄付等をお願い

(公社)なら犯罪被害者支援センターの活動は、賛助会員の会費とご寄付等で支えられています。皆様のご理解とご協力をお願いします。

賛助会員 年会費	個人	1口	3,000円
	企業 団体	1口	10,000円

賛助会費や寄付金には税法上の優遇措置があります。詳細は事務局にお問合せ下さい。

寄付型自動販売機設置のお願い

寄付型自動販売機とは、自動販売機の売上金額の一定額が支援センターに寄付されるものです。

寄付金は、犯罪被害者等の支援に充てられます。

皆様が購入された清涼飲料水が、被害者支援に役立ちます。



ホンデリング

~本でひろがる支援の輪~

ご協力をお願い

—新型コロナウイルスの影響により申込手続きの変更—

- 申込はWebのみの受付となっています。
Web受付(チャリボン)のサイトへいき、必要事項を入力します。
支援先→「公益社団法人 全国被害者支援ネットワーク」を選択一番下の「個別コード」にN13と入力して下さい。
- 一回に「5冊以上、5箱まで」お送りいただけます。
お手続き頂くと、ヤマト運輸が集荷に伺います。

以下の本は取り扱えませんので、
ご注意ください。

ISBNのない本、百科辞典、コンビニコミック、
個人出版の本、マンガ雑誌、一般雑誌

ISBNの見本



9870123456789

ISBN978-4-1234-5678-9



奈良県公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体 (公社)なら犯罪被害者支援センター

〒630-8215 奈良市東向中町6番地
奈良県経済倶楽部 経済会館4階
事務局: TEL 0742-26-6935
FAX 0742-95-7560

「ハートニュース 2024年
秋号・Vol.38」

発行責任者: 福井 学

編集: ハートニュース制作委員会

